

イエスの名を呼んだ人々

ルカによる福音書 2 : 15 - 21



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年1月1日

主イエス命名の日

上野聖ヨハネ教会にて

「八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。」

ルカ 2:21

新しい年が始まった今日、1月1日は「主イエス命名の日」です。「8日たって」とは、12月25日の降誕日から数えて8日目ということですね。この日幼子は正式に「イエス」と名付けられました。天使からマリアに、またヨセフに「その子をイエスと名付けなさい」（ルカ 1:31、マタイ 1:21）と命じられていたとおりに、それを実行したのです。

マリアはイエスの名を呼びました。ヨセフもイエスの名を呼びました。近くにいた人たちも、イエスの名を呼んだことでしょう。主イエスは30年あまり、その生涯にわたってその名前を呼ばれることになります。わたしたちも今日この礼拝を、「主イエス・キリストよ、おいでください」と、主イエスの名を呼んで始めました。

「イエス」とは、「主は救い」という意味です。

ところで今、イエスは生涯その名を呼ばれることになったと言ったのですが、実際に聖書の中でだれがイエスの名を呼んだのか、それはどんな場面であったか、を今日は確かめてみたいと思います。

イエスの名を呼んだ一人目は、ルカ福音書第 4 章に出て来る「汚れた悪霊に取りつかれた男」です。イエスはある安息日に、カファルナウムの会堂礼拝で説教しておられました。そのとき、大声で叫ぶ人がありました。

「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体はわかっている。神の聖者だ」ルカ 4:34

「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ」 好意をもって呼んだものではありません。憎しみと拒絶をもって叫んだのです。この人は「汚れた悪霊に取りつかれた男」(4:33)と記されています。この人は、もっと正確に言えばこの人に宿りこの人を支配している悪霊は、イエスが語られる神の国を憎んでいます。イエスが来られたことによって自分の支配が崩れそうだからです。しかしイエスに引きつけられている。イエスを拒否しつつ引きつけられていて、勝手に叫び声が出てくるのです。イエスの正体を見抜いています。「神の聖者だ」と。

その後どうなったか。読んでみましょう。

「イエスが、『黙れ。この人から出て行け』とお叱りになると、悪霊はその男を人々の中に投げ倒し、何の傷も負わずに出て行った。」ルカ 4:35

イエスは悪霊を追放する力を持っておられます。悪霊はこの人を投げ倒して出て行った。悪霊の支配は砕けて、神の国が、

神の愛がこの人を包んだ。この人はやがて正気に戻ったとき、目の前に微笑むイエスの顔を見たでしょう。そして今度は自分の真心から「ああ、イエス」と言って感謝したことでしょう。さっきは悪霊に叫ばされて「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ」と言ったけれども、イエスがかまわれた。このひとりの救いを必要とする人に関わられた。先ほどは悪霊のゆえに憎しみをもってイエスの名を呼んだけれども、今は愛と信頼をもってイエスの名を呼ぶのです。この人は実は悪霊に取りつかれていたときも、反感を持ちつつもイエスを求めていたのです。

イエスの名を呼んだ二人目は、ルカ福音書 18 章、エリコの町の近くで道端に座って物乞いをしていた盲人です。マルコ福音書 (10:46) ではバルティマイという名前で登場します。ナザレのイエスが通って行かれると聞いて、彼は叫びました。

「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」

ルカ 18:38

彼も叫びました。救いを求めてイエスの名を呼び続けました。イエスはどうされたか。立ち止まって、彼をそばに連れて来るように言われました。彼がそばに来るとイエスは「何をしてほしいのか」と尋ねられました。「主よ、目が見えるようになりたいのです」。

「そこで、イエスは言われた。『見えるようになれ。あなたの

信仰があなたを救った。』 盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。」 18:42-43

この人は最初にイエスの名を呼んだとき、「わたしを憐れんでください」と言いました。イエスはたしかにこの人を憐れまれたのです。

三人目は、ルカ福音書 23 章、イエスと共に十字架につけられた犯罪人の一人です。彼は傍らのイエスに言います。

「イエスよ、あなたの^{みくに}御国においでになるときには、わたしを思い出してください」 23:42

これに対してイエスはこう答えられました。

「アーメン、あなたに言う。あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」 23:43 (直訳)

十字架の上で死のうとする犯罪人は、イエスの名を呼んで、自分の最後の願いとして「わたしを思い出してください」と言いました。イエスは彼の願いを聞き入れられたばかりか、それ以上のことを約束されました。

「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」

わたしたちも自分の生涯を終えるとき、イエスの名を呼びたい。そして言いたい。

「イエスさま、わたしを思い出してください」

イエスはわたしたちを必ず覚えていてくださり、わたしたちをご自身と共に樂園におらせてくださるのです。

イエスの名を呼んだ四人目は、同じルカが書いた使徒言行録の中のステファノです。最初の教会の極めて有力な指導者であったステファノは、捕らえられて石打ちに処せられました。彼は石に打たれて死のうとするとき、天が開いてイエスが神の右に立っておられるのを見ました。彼はイエスの名を呼びました。

「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」使徒 7:59

イエスは彼の霊を引き受け引き取られました。ステファノの霊はイエスに抱かれて天に迎えられたのです。

今日はルカ福音書を中心に、イエスの名を実際に呼んだ4人——悪霊に取りつかれて苦しんでいた人、エリコの盲人、イエスと一緒に十字架につけられた犯罪人、ステファノ——とその場面を確かめました。そこに共通することがあります。

第1に、その人たちはイエスを求めてその名を呼んだことです。最初の人悪霊に取りつかれていて反感を持ってイエスの名を呼んだのですが、彼もまた、もがきつつイエスを求めていたのです。

わたしたちもイエスの名を呼びましょう。切に求めてイエスの名を呼びましょう。今日も明日も明後日も、この新しい年に

毎日、イエスの名を熱心に呼びましょう。

第2に、イエスはこの人たちの願いに答えられたということです。わたしたちの真実の求めをイエスは無視なさない。あの4人に関連させて言えば、イエスは「かまってくださいる=関わってくださいる方」であり、「憐れんでくださいる方」であり、「わたしを思い出してくださいる方」であり、「わたしの霊を受けてくださいる方」です。

主イエスの名前を呼ぶことから救いが始まります。

祈ります。

主イエスさま、あなたの尊いみ名を呼んで、今日新しい1年を始めました。この1年を、あなたのみ名を呼び求める1年にしてください。そしてあなたの救いを経験させてください。わたしたちを救うために人となられたあなたのみ名をほめたたえます。
アーメン